

木々の若葉もいつの間にか、心を落ち着かせてくれる深い緑色に変わりました。

そして、間もなく梅雨の季節を迎えます。

晴れた日には、普段開けることの無い北側の窓も、思いっきり開け放してみませんか！！

今回は、一編の「ちいさな心の詩(うた)」のご紹介です。

『ママ あのね』

ママのところに うまれてこれて
よかったなあって
きょう ようちえんで
ずうっと おもっていたんだよ

(幼稚園年長 男児)



宮城県の小さな町で、Hくん(6歳)が、夕食時の何気ない会話の中でママへの想いを口にし、この詩は生まれたのだそうです。

ママは、保育士として働いていた2011年、東日本大震災で被災。担任していた園児を津波で亡くしたうえ、実家も浸水し、思い出の品をすべて失ってしまいました。

震災で、あまりに多くのものを失くしたことで、それからというもの、一つでも、どんなことでも残したいとの思いが強まり、2人の子どもたちを授かると、毎日育児日記をつけ、すべてを書き留めてきたそうです。

その中には「大好きだよ」「宝物だよ！」と子どもたちとの声の掛け合いがたくさん記され、「あなたたちは大切な存在だと、声に出して伝えたい」と思うママの気持ちが、随所にあふれているということです。

「おひさまのかけら」川崎 洋・編



☆ミニ通信は次号より、担当が変わります。

ご愛読ありがとうございました。(ワーカーY. H)